

【近畿 ESD コンソーシアム・学生による ESD 活動書】
奈良市立伏見小学校野外活動支援 活動報告書

社会科教育専修 2 回生 横井 琴音

1. 実施日 2023 年 6 月 15 日(木)

2. 場所 奈良県立野外活動センター

3. 参加者 英語教育専修 4 回生 川田 大登 美術教育専修 2 回生 東 瑞
教育学専修 2 回生 宮木 舞 特別支援教育専修 2 回生 才田 優佳
社会科教育専修 2 回生 木幡 美幸 社会科教育専修 2 回生 横井 琴音

4. 活動の概要

2023 年 6 月 15 日に奈良県野外活動センターにて、奈良市立伏見小学校の野外活動が行われ、その支援を目的として本学ユネスコクラブの学生が参加した。活動支援の具体的な内容は、野外炊飯の補助、キャンプファイヤーの準備、スタンプの実施、キャンプファイヤーの補助などである。



キャンプファイヤーの様子

5. 参加学生の学び・感想

この野外活動支援におけるキャンプファイヤーで一番印象に残ったシーンは、特別な支援を要する子どもがいる班のスタンプで、その子がうまくりコーダーを吹くことができなかつたとき、子どもたちが誰に言われるでもなく、一緒に階名を歌って、学年全員でスタンプを作り上げていたシーンである。先生方の普段のご指導や子供たちのこれまでのかかわりの集積のようにも思えた。今回のファイヤーでは、子供たちの主体性や自治が強く見られ、私たちが積極的な支援を行う場面は非常に限られていたが、今回の状況にうまく合わせて支援をできていた後輩を頼もしく思った。

また、私自身も支援をするうえで重要なポイントを新たに見つけることができたように思う。

(国語教育専修 4 回生 川田 大登)

炎の周りではしゃぎ疲れる景色を全く見せない子供たちのエネルギッシュな姿を見て、友達と声が枯れるまで歌い踊った幼き日の記憶がよみがえった。大人になるにつれ複雑な出来事に接し、悩み苦しむことが多くなった。今回見た彼らの無邪気な姿は、今まで感じてきたつらい気持ちを和らげてくれた気がした。野外活動の支援のために訪れたが、彼らの自然体な姿に支えられた。キャンプ支援のとりこになったので、機会があれば参加したい。

(美術教育専修 2 回生 東 瑞)

今回の野外活動支援では飯盒炊飯の片付けとキャンプファイヤーの支援を行った。初めて訪れた場所だったこともあり、私自身が何をすれば良かったのかが分からなかつた。キャンプファイヤーではあいにくの雨になってしまって準備したゲームが行えなかつた。しかし改めて野外活動は子どもが主役であることに気付かされた。今

後の野外活動に参加するときには分からないことを分からないままにせずすぐに聞き、子どもが主体的に学べる場にしたいと思う。

(教育学専修 2回生 宮木 舞)

今回の野外活動支援では、主に飯盒炊飯の片付けとキャンプファイヤーの支援に入らせていただいた。

まず飯盒炊飯の片付けの際に、自分の意図していない行動で児童に迷惑をかけてしまったことがあった。今後は自分の行動が及ぼす影響について、都度立ち止まって考えるようにする。

またキャンプファイヤーでは、全員が一丸となって盛り上がっている様子であった。

また突如学生がスタンスすることになったが、児童の元気さに助けられなんとか乗り切った。その際、改めて雰囲気づくりの重要性を感じた。

(特別支援教育専修 2回生 才田 優佳)

子ども達が考えて動けるような声掛けについて特に考えさせられた。

飯盒炊飯の時に、担当した班がしっかりした子がいて、その子が主に動いている班だった。その状況を何とかしたくて、その子以外の子に指示をたくさん出してしまった。指示ではなく「今、何ができるかな？」と子どもが考えて行動できるような声掛けができればと思った。このような声掛けは時間に余裕があったはじめの方しかできず、大学生はもっと心に余裕をもって接しないといけないと思った。

(社会科教育専修 2回生 木幡 美幸)

今回の野外活動支援では、飯盒炊飯とキャンプファイヤーのお手伝いをさせていただいた。

飯盒炊飯では、暇をしている児童がいたが、私自身の余裕が無く、どうしたら児童が自主的に何をすればいいのか考え、行動できるような声掛けが出来なかったという反省が残った。

キャンプファイヤーでは、支援級の児童のために児童が一体となっている場面があり、支援級の子どもとの関わりについて、考え直すきっかけとなった。

(社会科教育専修 2回生 横井 琴音)